

評価結果概要表

【事業所概要（事業所記入）】

事業所番号	3873900769
法人名	有限会社 ケアサポートいずみ
事業所名	グループホームいずみ
所在地	愛媛県北宇和郡鬼北町大字永野市98番地1
自己評価作成日	平成25年10月15日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点（事業所記入）】

<p>入居者様の日々の暮らしぶりや心身の状態を1カ月毎にご家族様に便りにて報告している。月々の行事・レクリエーションの充実を図っている。「ふいの楽しみ方」を年間目標とし、その日の天候や入居者様の希望にて外出し楽しみを見出している。</p> <p>季節の野菜を入居者様と植え、収穫した野菜を食卓にて提供している。また 季節の花を絶やさないうような年間通じて草花が楽しめる環境を作っている。</p> <p>運営推進会議において、入居者様が委員会の状況を把握できる場所設定を行い、入居者参加型の会議を開催している。</p>
--

事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。（このURLをクリック）

基本情報リンク先	
----------	--

【評価機関概要（評価機関記入）】

評価機関名	特定非営利活動法人JMACS
所在地	愛媛県松山市千舟町6丁目1番地3 チフネビル501
訪問調査日	平成25年10月29日

<p>6月から事業所独自で運営推進会議を開催されており、会議には、利用者やご家族、協力医、民生委員、消防署の方等の参加もある。会議を事業所の居間で開催することで、メンバーには利用者の暮らしぶりを実際に見てもらえ、より事業所への理解も深まっているようだ。</p> <p>現在は、利用者の重度化もあり、職員数を増員して対応されている。職員それぞれに業務の担当を決めておられ、個々が責任を持って、又、他職員と協力し合って取り組まれている。</p> <p>ご家族からの看取りの希望とともに、「任せます」等の意思もあり、8月に事業所では、初めて利用者の看取りを支援された。支援について職員は、「こわい」等、不安もあったようだが、訪問看護ステーションの方や看護師資格を有する運営者、管理者等が利用者ご本人のこれからの状態変化について事前に説明され、又、精神面についてもサポートする等、すべての職員が協力し合って看取られた。</p>

・サービスの成果に関する項目（アウトカム項目） 項目 1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 該当するものに印		項目		取り組みの成果 該当する項目に印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目：23,24,25)	<input checked="" type="radio"/>	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいの 3. 利用者の1/3くらいの 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています (参考項目：9,10,19)	<input checked="" type="radio"/>	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目：18,38)	<input checked="" type="radio"/>	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目：2,20)	<input checked="" type="radio"/>	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目：38)	<input checked="" type="radio"/>	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりの拡がりや深まりがあり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目：4)	<input checked="" type="radio"/>	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目：36,37)	<input checked="" type="radio"/>	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、生き活きと働いている (参考項目：11,12)	<input checked="" type="radio"/>	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけられている (参考項目：49)	<input checked="" type="radio"/>	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	<input checked="" type="radio"/>	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごさせている (参考項目：30,31)	<input checked="" type="radio"/>	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	<input checked="" type="radio"/>	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らさせている (参考項目：28)	<input checked="" type="radio"/>	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

自己評価及び外部評価結果表

サービス評価自己評価項目 (評価項目の構成)

- .理念に基づく運営
- .安心と信頼に向けた関係づくりと支援
- .その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント
- .その人らしい暮らしを続けるための日々の支援

【記入方法】

指定認知症対応型共同生活介護の場合は、共同生活住居(ユニット)ごとに、管理者が介護職員と協議のうえ記入してください。

全ての各自己評価項目について、「実施状況」を記入してください。

(注) 自己評価について、誤字脱字等の記載誤り以外、外部評価機関が記載内容等を修正することはありません。

用語について

家族等 = 家族、家族に代わる本人をよく知る人、成年後見人などを含みます。
(他に「家族」に限定する項目がある)

運営者 = 事業所の具体的な経営・運営に関わる決定権を持つ、管理者より上位の役職者(経営者と同義)。

職員 = 「職員」には、管理者および非常勤職員を含みます。

チーム = 一人の人を関係者が連携し、共通認識で取り組むという意味です。
関係者とは管理者・職員はもとより、家族、かかりつけ医、包括支援センターなど、事業所以外で本人を支えている関係者を含みます。

ホップ 職員みんなで自己評価!
ステップ 外部評価でブラッシュアップ!!
ジャンプ 評価の公表で取組み内容をPR!!!

- サービス向上への3ステップ -
“ 愛媛県地域密着型サービス評価 ”

事業所名 グループホームいずみ

(ユニット名) _____

記入者(管理者)

氏名

青木 瞳

評価完了日

平成25年10月15日

自己評価及び外部評価表

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
理念に基づく運営				
1	1	理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	(自己評価) 利用者中心の理念を共有し、常に笑顔で接し自由性を拡大する事によって、暮らしの窮屈さが減少できる環境作りを実践している。	
			(外部評価) 「自由 信頼 笑顔」の輪の中心に「安心」があることを図で示して理念に掲げておられる。理念は居間の掲示板上等に貼り、職員で共有されている。この2年間、職員の入れ替わりがなく、職員で話し合いを重ねながら、利用者の暮らしの環境改善や働きやすい職場環境作りに取り組んでこられた。	
2	2	事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	(自己評価) 毎月年間行事の遂行及び地域交流行事への参加を行っている。特に鬼北町内の敬老会・文化祭・でここんか祭り・秋祭り等には毎年出掛けている。また保育園や併設施設ほのぼのとの連携によって、訪問や招待活動を行い活動している。そして、2ヶ月に1回 元教師を招き「読み聞かせ」の時間を設け、読み語りと交流を持っている。	
			(外部評価) 散歩や買い物に出かけると、声をかけてくださる地域の方も増えているようだ。散歩中には、近所の方が車いすを押すお手伝いをしてくださったり、よく買い物に利用するスーパーでは、レジで利用者がお金を払う際、ゆっくり待ってくださり、間違っても「大丈夫ですよ」と言ってくださるようだ。地域の行事に参加する際には、退職した地元職員が利用者の席を確保してくれる等、協力をしてくださる。保育園の行事に利用者が参加して交流を続けておられ、園児が事業所に来てくれた際には、利用者と握手して帰られるのが恒例になっている。	
3		事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	(自己評価) 入居者家族及びホーム近隣及び消防団員等に対して、認知症状及び対応方法について機会ある毎に伝えている。	

自己評価及び外部評価表

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
4	3	<p>運営推進会議を活かした取組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実践、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている</p>	<p>(自己評価)</p> <p>今年4月まで、併設施設(ほのぼの)にて合同会議を開催していたが、6月より単独会議に変更している。入居者様やホーム内の様子が直に確認できている。また会議内容は、発展的な意見が多く、報告内容以外の意見交換が多くなっている。また消防分団長を委員に招くことによって、防災連携が密となっている。</p>	
			<p>(外部評価)</p> <p>6月から事業所独自で会議を開催されており、会議には、利用者やご家族、協力医、民生委員、消防署の方等の参加もある。会議を事業所の居間で開催することで、メンバーには利用者の暮らしぶりを実際に見てもらえ、より事業所への理解も深まっているようだ。今後は、よく利用するスーパーの店員の方等も招き、事業所のことを知ってもらいたいと考えておられた。</p>	
5	4	<p>市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる</p>	<p>(自己評価)</p> <p>鬼北町役場 介護福祉課、地域包括支援センター間においては、電話、メール等、必要時応じ連携を行っている。また、運営推進会議のメンバー2名おり、問題提議や事例検討含めて話し合う機会がある。</p>	
			<p>(外部評価)</p> <p>系列小規模多機能事業所と合同で会議を行っていた時には、地域の方やご家族に向けて「認知症サポーター養成講座」を行ったこともある。運営推進会議に町役場の方が参加してくださっており、会議の感想や運営上の注意点等を話してくださっている。又、困ったこと等があれば、相談等して取り組みを検討されている。</p>	
6	5	<p>身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる</p>	<p>(自己評価)</p> <p>施設研修及び日々のカンファレンスにおいて、具体的拘束禁止行為を理解しケアに取り組んでいる。施錠は、夜間防犯のみである。またベッド環境においては、転落防止の為、運動領域の増減によって1ないし2つのベッド柵を使用している。そして、転落の危険性のある入所者に対しては、ベッドを使用せず夜勤者と同室にて安眠を得るようにしている。</p>	
			<p>(外部評価)</p> <p>以前は、玄関に鍵をかけるようなこともあったが、2年前からは、外出の機会を積極的に作る取り組みをすすめられ、現在は利用者がひとりで出かけることはなくなったようだ。念のために玄関戸の内側には、利用者に向けて「出かける時は職員に声をかけてください」と貼り紙されている。居室ベッドには、利用者が起きてベッドの柵の握る部分に鈴を付けておられ、利用者が夜間立ちあがろうとした時には、職員が見守れるようにされていた。</p>	

自己評価及び外部評価表

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
7		<p>虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている</p>	<p>(自己評価) 虐待防止について、施設研修にて何故虐待行為が起きてしまうのかの原因を掘り下げ、業務内容やストレス要因の把握を行っている。また 入居者に対してストレスを感じるスタッフについては、面接を行い、他スタッフの協力を仰ぎ、共に健全に過ごせる場の環境作りを実践している。</p>	
8		<p>権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している</p>	<p>(自己評価) 現在制度を利用する入居者様はいない。権利擁護については、外部研修を管理者が受講しスタッフへ周知している。</p>	
9		<p>契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている</p>	<p>(自己評価) 入所前に本人及び家族との面接を行う。また必要時応じて、自宅訪問を行い、入所者の人的・物的・社会的環境を把握する。そして、契約書・重要事項説明書を行い同意を得る。また契約書・重要事項説明書に改定が生じた場合は、文書及び口頭説明にて合意を得るようにしている。</p>	
10	6	<p>運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている</p>	<p>(自己評価) H23年度より以降、入居者様の退所入所が数件ある。現在ご家族の面会や電話連絡等が増え、管理者及びスタッフに対して、様々な意見や要望等を聴くことができている。また月毎に入居者状況報及び日々暮らしぶりの記録を写真に残し新聞便り等にて詩紹介している。人によっては、毎回新聞便りを見られた後、電話連絡があり感想を述べて頂いている。</p> <p>(外部評価) 家族会は年に2回開催されていたが、参加者が少ないこともあり、現在は、毎月行う行事に案内して、ご家族が参加しやすいように工夫されている。毎月発行する「いずみだより」は写真を多く採り入れ作成しておられ、他にも、小旅行した折には号外を出したり、利用者の100歳のお祝いの折には、「いずみニュース」として特別号を発行し、ご家族に利用者の暮らしの様子を報告されている。ご家族の来訪時には、職員は笑顔で迎えられ、一緒にお茶を飲みながら過ごせるように気配りをされている。居間で皆と過ごされる方もおられる。</p>	

自己評価及び外部評価表

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
11	7	運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	(自己評価) 毎月のミーティング及び日々の申し送り時ミニカンファレンスにて、意見や提案を傾聴する機会を設け、その都度具体策を充実させ実践している。管理者は、様々な意見・提案については、安全策を講じながら「まずは取り組みから」という思いを大切にしている。 (外部評価) 現在は、利用者の重度化もあり、職員数を増員して対応されている。職員それぞれに業務の担当を決めておられ、個々が責任を持って、又、他職員と協力し合って取り組まれている。行事担当の職員は、お誕生会や運動会、外出等を企画されている。管理者は、自らが動き出すことに努めておられる。又、「職員に任せてみる」ことを大切にされており、職員が責任を持って取り組むことが、「自分で考えて行動できるようになる」ことにつながっているという成果を感じておられた。	
12		就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	(自己評価) 今年 8月幹部会議において、就業規則の見直しを行い9月より施行している。勤務の組み方において、夜勤後は、月2回は2日の休日が取れる配慮を行っている。また月2日の休日希望を了解している。そして常勤・非常勤に関わらず、自己都合による2日以上以上の休日についても内容を把握し了解後、勤務表に繁多している。平成23年以降降退職者なく経過している。	
13		職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	(自己評価) 常に職員の心身の状態・モチベーションの変化を確認し、相談・指導を行っている。職員の年齢層が、50～60代が多く、身体面を考慮しながら、日々自己研鑽ができる環境を提供している。	
14		同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会をつくり、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	(自己評価) 鬼北圏内における保健医療福祉業者が交流する地域ケア会議に出席をしている。しかし、行政に対して地域密着型のサービス事業者が集う場を働きかけて欲しいという要望を出しているが、開催には至っていない状況にある。	
.安心と信頼に向けた関係づくりと支援				
15		初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	(自己評価) 入所前にケアマネジャーが、施設内及び自宅訪問を行い、本人より、困り事や要望を傾聴し、できるだけ安心して入所ができる体制づくりに努めている。	

自己評価及び外部評価表

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
16		初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	(自己評価) 入所前 本人とは別の場を設け、ご家族様の困り事や不安感、及び今後の要望について傾聴し、早期に信頼関係が構築できるよう努めている。	
17		初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	(自己評価) ご家族様或いは、施設・病院職員より、入所前のアセスメントを行い、現状の困り事やこれからの生活に対する不安・要望等を傾聴し、グループホームにおける生活が可能か否か見極めを行っている。また当施設以外の暮らしの可能性を多角的に検討し、情報を提供する。	
18		本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	(自己評価) 入居者様の家という感覚的思いを常に持ち、プライバシーの確保と生活意欲の向上、その人にできる役割提供を行い共に暮らし協働する関係性を構築している。	
19		本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	(自己評価) ご家族様に対し、日々の面会や電話連絡にて入居者様の状況や種々の連絡事項等を伝えている。また心身の変容における状態については、対策を提案し互いに相互協力を行いながら、より良い暮らしとなるように導いている。「家族の存在」がいつも身近に感じられるよう支援に努めている。	
20	8	馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	(自己評価) 鬼北町に住所のある入居者様が殆どであり、ドライブ・散歩・買い物・地域の催し等に出掛けると、家族や親戚・知人に出逢う機会が多く、その場で立ち話をする事等 時間を自由に使い関係性を大切にしている。また今年4月まで1名地元の診療所に通うことで、友人や親戚との接点があり、半日を要し出掛けることもしている。できるだけ普通の暮らしぶりが展開できる支援を行っている。 (外部評価) よく利用されていたスーパーに買い物に行かれたり、少し遠くても以前診てもらっていた病院で続けて診てもらえるよう支援して、知り合いの方と会えるよう取り組まれている。ご家族への報告時には、ご家族の方の利用者ご本人への思い等も踏まえて、まずはご本人の「できること」をたくさん伝えるように配慮されている。今後は、利用者個々のご自宅近くに出かけて行き、知り合いの方にお会いできるような支援にも取り組みたいと考えておられた。	

自己評価及び外部評価表

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
21		利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	(自己評価) ホームの入居者1名を除き終日リビングにて過ごすことが常である。一人ひとりの個性に合わせて関わりを持ち、孤立しない空間を提供している。また居室ベッドにて終日過ごしている入居者様にとっては、他の入居者様を誘い、談話等の和みの時間を提供している。	
22		関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	(自己評価) 死亡退所や長期入院等があった場合、契約が終了した後も、電話連絡、面会等を受け、家族の有り様や思いを受け止めている。また長期入院においては、時々様子伺いに出向き相談支援に努めている。	
.その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント				
23	9	思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	(自己評価) 日々の暮らしにおいて、日々思いを傾聴しながら、その思いに沿っての支援に努めている。現在 即時記憶が失われつつある入居者様の割合が約2/3である。食・楽しみ・役割についての思いをその場で伝えることは可能である場合があり、場面場面で思いが到達できるよう支援している。尚 日々の記録においては、フォーカスチャータリングを活用し、課題を焦点化しアクションを起こしている。 (外部評価) 3年前からフォーカスチャータリングを採り入れておられ、利用者の生活の課題を探り、介護計画につなげるよう取り組まれている。又、センター方式のアセスメント表は、利用者個々の担当職員がわかる情報のみを記入されている。職員は、利用者の手の動かし方や表情をみて、利用者の状態等を察しておられる。現在、意向を言えない利用者が多くなったこともあり、個々の本来の思いや意向の把握の難しさを感じておられる。	
24		これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	(自己評価) 1年に1回認知症センター方式を活用し、生活全般における心身の変容及び暮らしの状況把握を行い、認知力・活動能力等1年毎の変化を確認し支援に努めている。	
25		暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	(自己評価) 入居者様 ひとり一人のその人らしさを理解し、認知の進行に随意的な生活の有り様・現状把握を行っている。	

自己評価及び外部評価表

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
26	10	<p>チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している</p>	<p>(自己評価) 入居者様ひとり一人に担当者を付け、担当者が一人ひとり責任をもってケアの充実を他スタッフに要請し、適宜心身の変化に基づきケアの修正を検討し、月1回のミーティングにおいてケアマネジャー他全スタッフと共に協議し決定する。またケアの修正プランについては、都度にケアマネジャーに相談がある。尚 本人・家族に対し、必要なケアについて、成り行きを説明し合意を得る。</p> <p>(外部評価) 「利用者の思いが到達するような介護計画作成」を意識しておられ、特に、排泄支援を大事にした計画作りに努めておられる。ご家族には、計画案を提示して意見を聞くようにされているが、「このままでいいです」「お任せします」というような言葉が多いようだ。長期目標は6ヶ月、短期目標は3ヶ月と決め、毎月第4週木曜日のミーティングの際、職員でモニタリングを行い見直しにつなげておられる。</p>	
27		<p>個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている</p>	<p>(自己評価) 日々の気分や行動変化を申し送りの際、スタッフ間で共有する。その場でミニカンファレンスを行い必要なケアについて検討し、同日から実践できるようにしている。確実にケアの継続が実践できるようにカードックス、スタッフ申し送り簿を活用し過不足がない状態を提供している。</p>	
28		<p>一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる</p>	<p>(自己評価) それぞれ入居者玉本人・家族の有り様を知り得て、その人に即した関わりを行っている。特に最近にあっては、統合失調症の入居者様の精神的興奮の鎮静化の為、併設施設の利用を行う等している。一人ひとりの生活の支えとなる為、既存のケアに捉われないことなく発展的・柔軟な対応に努めている。また 他施設・事業所等からのレクリエーション案内等においては、必ず参加できる状況を作り交流が途絶えないよう努めている。</p>	
29		<p>地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している</p>	<p>(自己評価) 地域・近郊の行事や教育施設・保育施設等のイベント情報をリサーチし、できるだけ多くの入居者様が楽しめる場の提供を行っている。</p>	

自己評価及び外部評価表

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
30	11	<p>かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している</p>	<p>(自己評価) 本人・ご家族様の意向に沿った医療機関に通院している。また臨時受診が多い状況にあるが、それぞれご家族様の身体的・社会的側面から通院介助が困難になっている場合には、代行を行っている。また状態変化があった場合、文書にて情報提供を行うことが多くなっている</p> <p>(外部評価) 協力医を受診しておられ、又、24時間いつでも連絡が付くようになっており、指示を仰ぐことができる体制がある。近隣の医療機関と連携を図る予定となっており、医師がインフルエンザの予防接種に来てくださったり、看取り支援を行う際には、往診もお願いできるようになるようだ。</p>	
31		<p>看護職との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している</p>	<p>(自己評価) 看護師2名職務についている。日常的に心身の正常な状態を知り、異常を察知できるようフィジカルアセスメントについて伝えを行っている。また異常を確認した場合には、看護師に報告を行い処置及び通院等の判断し医療連携を行っている。日常の処置については、文書及び方法を伝え周知している。</p>	
32		<p>入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。または、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている</p>	<p>(自己評価) 入院時サマリーの提出、口頭による日常の状況等について報告している。また療養中、病院訪問を行い治療・病状確認を担当医及び看護師より情報提供を受けている。また退院前には、退院時カンファレンスを家族と共に参加し、退院後の療養ケアに役立てている。</p>	
33	12	<p>重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる</p>	<p>(自己評価) ホームにおいて、8月老衰による終末期の入居者の看取りを家族と共に。そして、担当医及び訪問看護ステーションの協力体制を密に行い、スタッフに混乱が起こらない対策を講ずる。また9月胃癌ステージの入居者の医学的管理・療養管理について、担当医と連携し疼痛管理が必要となった時点にて入院し治療を受ける。双方の事例について、スタッフ間にて十分に意見交換を行い、ケア側の不安感が最少減となるように看護師は、疾患の成り行きについて説明を行い対応する。</p> <p>(外部評価) ご家族からの看取りの希望とともに、「任せます」等の意思もあり、8月に事業所では、初めて利用者の看取りを支援された。支援について職員は、「こわい」等、不安もあったようだが、訪問看護ステーションの方や看護師資格を有する運営者、管理者等が利用者ご本人のこれからの状態変化について事前に説明され、又、精神面についてもサポートする等、すべての職員が協力し合って看取られた。</p>	

自己評価及び外部評価表

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
34		急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	(自己評価) 全てのスタッフにおいて、救急蘇生法及び外傷・骨折等の救急手当及び事故発生時の初期対応について研修を行っている。ヒアリング等の詳細な事故についてもカンファレンスを利用し、対策を講じ危機感を持って業務に従事している。	
35	13	災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	(自己評価) 年2回自然災害及び火災による訓練を実施している。H25.4/23月自然災害訓練(消防署立会い)、H25.10/23火災訓練予定としている。また地域の消防団の協力要請を行い、4月消防職員及び地区消防団員10名の訪問を受け、施設の構造・防火設備及び入居者の状況把握を受け、今後緊急事態が生じた場合、直ぐに救援活動を行うことの合意を受けている。尚 運営推進会議において、地区消防団長の委員依頼を行い、施設の現状把握をして貰っている。 (外部評価) 事業所の周りには、民家が少なく、夜間は人が少ないということも踏まえて、昨年の暮れには、消防署の方からの提案で地区の消防団の方との連携に取り組まれた。消防団の方には事業所内を見学してもらった。居室入り口にはそれぞれにひとり歩き方には水色の印、車いす利用等介助が必要な方には黄色い印を付けて、色で利用者の身体状態が分かるようにされていた。近々スプリンクラーを設置する計画がある。又、居室が並ぶ廊下の先の戸からも外に出られるようスロープを付けられた。災害時には裸足では危ないとの消防署からのアドバイスを受けて、利用者や職員は、室内でゴムサンダルを履くようにされていた。	
その人らしい暮らしを続けるための日々の支援				
36	14	一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	(自己評価) 入居者様一人ひとりの人格を尊重した言葉かけや態度に心掛け接している。また入居者様の居室前に表札を掲示し自分の空間であることを入居者様と他者ともに示している。排泄・清潔における介助においても、自尊心が損なわれないように配慮し、一人の空間を大切に関わっている。 (外部評価) 職員は、利用者に細かく言葉をかけておられ、席を立たれる方に言葉をかけて、意向を尋ね付き添われる様子がみられた。クリスマス会の際等には、利用者が皆の前であいさつするような機会を作っておられる。又、長寿やお誕生日等の祝いごとを大切にされている。利用者がトイレを使用されている時、職員は外から「楽になられましたか」とお聞きする等ご本人に配慮した言葉で状態を確認されている。年齢のお若い利用者は、できるだけ外に出る機会を作っておられる。調査訪問時には、職員と一緒に洗濯物を干したり、他利用者の車いすと一緒に押す等しておられた。	利用者は、「人に言われて行くことを嫌う」方も多いようだ。又、事業所では自由な暮らしを支援することを目指しておられる。今後さらに、利用者をご自分で暮らしていると思えるよう、サポートを工夫して利用者主体の暮らしを支援していかれてほしい。
37		利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	(自己評価) 入居者様自身ができることや役割については、見守り及び共に協働することによって達成感が持てるよう関わっている。希望については、都度の声かけを行い思いが叶えられる方向にて行動している。また 日常生活の中で、できること・わかることを一つでも多く発見できるように働きかけている。	

自己評価及び外部評価表

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
38		日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	(自己評価) 日々本人の思いに沿えるように、入居者様の声を大切にし徐々に接し一人ひとりのペースに合わせ支援している。自己決定ができる方は、その人の本来の暮らしを好み楽しみのある暮らしをされている。また意思の表出が困難な入居者様に対しては、その時々様々な活動を通して、表情・態度から察知し喜びのある場面の設定を行っている。	
39		身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	(自己評価) 2ヶ月に1回、美容師の来訪を受けカットを行っている。また起床時、パジャマから日常着に着替える、または外出時、自ら着替えをし場に即した装いを行う等や共に衣類の選択を行っている。入居者様によっては、化粧を好まれる方もあり、希望に即して支援している。	
40	15	食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	(自己評価) スタッフと共にホームの野菜畑から野菜を収穫する。その後、調理の手伝いを行う等出来る入居者様2名ある。後片付けについては、自然にできる人がキッチンに立ち行っている。食事は、軟飯軟菜・キザミ食・ペースト食と一人ひとりの嚥下状態に合わせて提供している。また 午後から時間をかけて、スタッフと共におやつ作りを行う時もある。	
			(外部評価) 食事担当職員を2名配置して事業所で食事を手作りされている。利用者は、野菜の下ごしらえをされることもあるようだ。現在は介助の必要な利用者が複数おられることもあり、職員は、利用者の介助をだいたい終えたところを見計らって、利用者の隣に座り、同じものを食べておられた。ペースト状の食事を食べる方には、職員がメニューの説明をされる。食後は、利用者の方が台所に立ち、みなのお食器を洗ってくださっていた。	おいしい食事を利用者それぞれがさらに楽しめるよう、工夫できることはないだろうか。利用者個々の楽しみ方等も探りながら、この機会に職員でアイデアを出し合い、話し合ってみてはどうだろうか。
41		栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	(自己評価) 個々人の嚥下能力・食事实行機能等を勘案しながら、食事形態・量・温度を考慮し食事を提供している。また1日の水分量の不足がないように、一定のコップを使用し確実に1日の水分量が充足される状況を作っている。	
42		口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	(自己評価) 口腔ケアの自立者は2名のみである。1日3回の歯磨き動作について、全てスタッフが介助しケアしている。現在6名義歯(全・部分)である。また歯科受診の必要な入居者については、歯科訪問診療を依頼している。義歯については、夕食後洗浄し保管している。	

自己評価及び外部評価表

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
43	16	排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	(自己評価) フローシートを活用し、一人ひとりの排泄状態が日々直に確認できるようにしている。緩下剤の調整、トイレ誘導の頻度調整、リハビリパンツ・尿取りパットの種類の選択、着用衣類の選択、トイレの環境作り等、一人ひとりが自己能力を十分に発揮し心地良い排泄ができるよう支援している。 (外部評価) 入居時、おむつを使用していた方については、時間を決めてトイレに誘導等して排泄パターンの把握に努められ、又、ご本人に適した排泄用品等も検討して自立に向けて支援された。失禁等があるが、職員が対応することを受け入れられない利用者の方には、決まった職員がゆっくりお話を聞きする等、時間をかけてかかわることで信頼関係を作り、又、ご家族にも協力を得ながら、受け入れてもらえるよう取り組まれた事例がある。現在は、状態も改善して、トイレで排泄されている。又、夜間、居室から出てトイレの場所がわからない方もおられ、大きい矢印を掲示して示しておられた。	
44		便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	(自己評価) 便秘になり得る成り行きを確認し、便秘予防策を講じている。現在緩下剤の種類の選択・水分補給・運動等により、便秘徴候なく経過している。	
45	17	入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々に応じた入浴の支援をしている	(自己評価) 週3回の予定としているが、希望によって入浴できる。現在車椅子使用者が多くなり、浴室の改装を行い湯船に入ることができるようにしている。またプライバシーの確保およびスタッフが一人ひとりとゆっくり関わられるよう、一人の空間を大切にしている。認知症の進行・運動機能低下によって、見守りから全介助の支援を行っている。現在見守りのみにて入浴できる人は、2名である。 (外部評価) 8月には浴槽の改修をされた。一人用の浴槽で浴室の中央に設置されている。これまではシャワー浴のみであった方も介助用具等を使用しながら、お湯に浸かって温まれるよう支援されており、利用者にたいへん喜ばれているようだ。ミーティングや毎朝の申し送り時には、職員で入浴時の介助等の方法について意見交換して、共有しながら支援をすすめておられる。	
46		安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	(自己評価) 個々人の睡眠形態に合わせ、入眠導入を行っている。また疾患によっては、日中AM・PM1～1.5時間ベッド・ソファにて休息時間を設け、循環動態の改善を図っている。	

自己評価及び外部評価表

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
47		服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	(自己評価) 内服のミスがないように、各自専用の薬箱及び日々の薬ケースを使用し管理している。また薬の変更等があった場合は、その都度文書・口頭及び薬カレンダーに記載し申し送りを行っている。また日勤者と夜勤者が、名前と薬時間との確認を行っている。そして内服に関しては、必ず手渡し或いは、口に含む支援を行っている。尚 薬の拒否がある一定期間ある場合は、主治医と相談し対応している。	
48		役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	(自己評価) 本人ができること・したいことを把握し、役割を提供することによって充足感が持てる環境作りを行っている。個々人の生活歴及び認知の進行に合わせて、一人で楽しむこと・合同で楽しむこと・の機会を作っている。塗り絵・貼り絵・カラオケ・ボール遊び・散歩等 それぞれの希望に沿い実践している。	
49	18	日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	(自己評価) 一人ひとりの希望によって、買い物・散歩・ドライブ・お宅訪問を行っている。また地域の行事には、積極的に参加している。季節や個人差はあるが、現在週3～4回程度の外出を行っている。このことにより、近隣の人達や親戚関係と遭遇することもあり楽しみの一つとなっている。 (外部評価) 事業所では、外に出ることに力を入れた取り組みをすすめておられる。日常的な散歩の他にも、その日の勤務リーダーが、「ふいの楽しみ」として、午後からの活動を決めておられる。天気等を見ながら、急きょ外出するようなこともある。畑で野菜を作っておられ、利用者は収穫等を楽しまれている。早春には、つくし取りに出かけられ、利用者は熱心につくしを探されるようだ。又、計画を立てて、大洲にご家族等と一緒に小旅行に出かけたり、町内外の道の駅や名所へ出かけたりされている。	
50		お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	(自己評価) 個人のお小遣いについては、家族の希望によりホーム預かりとしている。買い物希望については、希望があったその日に出掛けるようにしている。お金の所持にて、レジで対応ができる入居者は1名のみである。他の買い物については、代行を行っている。	
51		電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	(自己評価) 本人の希望やホームから電話の誘いをする事によって交流が継続している。便りについては、入居者様に便りを書くよう伝えることもあるが、文字の作成・文章の組み立てができない状態にある。	

自己評価及び外部評価表

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
52	19	居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	<p>(自己評価)</p> <p>施設内あらゆる場所にその季節毎の飾りつけやゆったりとした空間を作っている。またリビングフロアは、ソファ1台・車椅子数台が和めるように工夫している。</p> <p>(外部評価)</p> <p>歌がお好きな方が多く、調査訪問時の午後は、皆でカラオケを楽しんでおられた。南側にテラスがあり、時にはパーベキューやお茶を楽しまれている。利用者が折った鶴の折り紙をテレビの前に飾っておられた。調査訪問時にも、利用者にご自分で新聞広告を使って鶴を折っておられた。ご自分の義歯を気にされる方がおられたこともあり、洗面所には、「入れ歯を預かっています」と貼り紙をしておられた。廊下には空気清浄機を設置しておられる。事業所は太陽光で発電する設備があり、居間や廊下等、照明を点けて明るくされていた。</p>	
53		共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	<p>(自己評価)</p> <p>リビング ソファに1人ひとりが、自己の定位置を確保している。思い思いにテレビを観ながら横臥、塗り絵、箱折、新聞折りをする等行っている。</p>	
54	20	居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのもを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	<p>(自己評価)</p> <p>本人・ご家族様の意向に沿った室内環境の整えを行っている。自分の居室が理解できるように、ネームプレート・表札二つを掲げ、より入室しやすい配慮をしている。</p> <p>(外部評価)</p> <p>入居間もない利用者の居室の入り口には、利用者ご本人の帽子をかけて目印にされていた。昼食後は、ご自分の居室でベッドに横になり、テレビをみる方もおられた。仏壇を置いておられたり、ご家族の写真を飾っておられる居室もみられた。</p>	
55		一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	<p>(自己評価)</p> <p>ベッド環境・トイレ環境を整え、できるだけ運動機能が発揮できる工夫を行っている。また施設内の表示は大きくし確認できる状況を提供している。少しでも「できる」「わかる」ことの助けができるよう工夫している。緩徐に関わることによって、多角的に自立の一步が見出せるよう支援している。</p>	